



第45号 木曾川町連区



地域づくり協議会だより

【発行日】令和2年9月1日 【発行者】木曾川町連区地域づくり協議会
 〓木曾川町内割田一の通り27(一宮市木曾川庁舎内) 〓84-0005
 【メールアドレス】k-chiiki@orihime.ne.jp
 【ホームページ】http://138kisogawa.org 木曾川町連区で検索してね♪



↑
こちらからどうぞ

公民館長就任のご挨拶と活動について

公民館長 太田 孝子

一宮市に合併し早15年になりました。公民館事業が導入され、3代目の館長として就任しました太田孝子でございます。どうぞ宜しくお願いします。

公民館は地域に根差した文化活動、学習活動の場であり、地域住民の生涯学習や交流とふれあいの場として多くの方々に利用され、いつでも誰とでも気軽に利用でき、総合的に応える日常生活に最も身近な地域の拠点施設となっています。

事業内容は、地域の自然条件や生活、文化、人材などの特色を十分に生かし、様々な年代の方が必要とする学習の機会を選択できる各種の学習プログラムを提供しています。

- ①魅力ある地域づくり事業・・・盆踊りつどい
- ②家庭&青少年学習事業・・・次代を担う青少年に多くの体験や活動を通して豊かな人間性を育てる。
- ③成人&高齢者学習事業・・・高齢化社会が進み高齢期に関するプログラムの提供
- ④女性学習事業・・・女性の特性を生かす一方女性の資質向上を図る。
- ⑤学習発表事業・・・学習成果の発表の場(文化&芸能祭)
- ⑥体育&レクリエーション事業・・・生涯スポーツ、レクリエーション活動を通じて住民の健康、生きがいづくりの推進(体育祭)

盆踊りのつどい、体育祭、文化&芸能祭は葉栗郡木曾川町時代より引き継がれ3大事業として毎年盛大に行われ、多くの方々に楽しんでいただいております。特に町民が一つになれる体育祭はあちらこちらで“元気だった”の声が聞かれ大きな絆を感じます。

盆踊り、文化・芸能祭は町文化団体協議会と文化創造ワークショップに、体育祭はNPO法人、木曾川文化・スポーツクラブの方々に協力いただいております。

また各学習事業の継続・発展には執行部役員を中心に講師の方々にもご尽力を頂いております。多くの事業を進めていくうえで大切な役割を担ってくださっているのが公民館推進委員さんです。運営組織に加わり地域全般に公民館活動を周知したり住民の声をくみ取ったりと公民館と地域の皆さんとのパイプ役となっていていただいております。思いやりと連帯に満ちた公民館活動の火を消さぬよう地域の皆様に見守っていただき、末永く親しんで下さることを願っております。



世代間の連携と活力あるまちづくりを

活気部会長 平林 哲也

活気部会では、過去2年間、吹き渡る秋風に吹かれながら、自然豊かな木曽川の水辺に整備された木曽川緑地公園（雀のお宿公園）での野外音楽祭をお楽しみいただきてきました。今年度も「第3回雀のお宿野外音楽祭」を10月4日（日）午後開催する計画を立て、市民のみなさまにお楽しみいただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の懸念からやむなく中止を決定しました。とても残念ですが、来年度は新型コロナウイルスが終息し、開催できる環境になることを待ち望みたいと思います。

また、木曽川町内3小学校と地域との連携活動として、将来を背負う子どもたちに町内の歴史や自然、文化を学んでもらう機会をつくってききましたが、こちらも新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学校は休校期間の学習の遅れを取り戻すために行事の削減を迫られ、今年度は実施が難しい状況となりました。しかし、今後も新型コロナウイルスの感染状況を見定めながら、各学校と相談の上、実施の是非を検討していきます。

活気部会に限らず、今年度は地域づくり協議会のどの部会も活動の制約を受けています。しかし、これを機に、新たなニーズを掘り起こしながら、世代間の連携と活力あるまちづくりを目指して何ができるか、また何をしていかなければならないのか再考していきたいと考えております。みなさまのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

ふれあいの町づくり・地域の目と手足に

思いやり部会長 中村 隆

今年度地域づくり協議会初参加ながら、思いやり部会長を拝命し戸惑っているところです。ボランティアとして広く皆様のお役に立てば幸いです。

日本は世界最速で少子高齢化社会が到来し、孤立化しがちな高齢者を地域でどう支えるかが課題となっています。

思いやり部会では行政とは別の立ち位置で、ご近所付き合いを通じて、高齢者等少し自立困難な方々の支援と、小学生児童登下校時の安全確保のため見守り活動をするのがおもな事業です。その一つとして昨年度西小学校区の町中で、何か困っていそうなお年寄り（認知症の方）に声をかける認知症徘徊模擬訓練の体験を実施しました。これは一宮連区では初の試みで大変注目されました。

今年度は東小学校区での開催予定でしたが、未曾有のコロナウイルス禍により中止となりました。次年度順延の方向で調整していますので、宜しく申し上げます。

現在思いやり部会は11の協議団体と、公務員・サラリーマン・主婦等の皆様方17名で構成され、世代を越えた住民間のふれあいと絆を深め、地域福祉の町づくりを推進しています。

ところで皆さん1日どれくらい歩いていますか？
生活の中とウォーキングで8千歩あるくとよいそうです。
健康長寿のため意欲的に取り入れたいものです。



地域の方々のお役に立ちたい

安全安心部会長 中井 義也

いつも木曾川町連区地域づくり協議会の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。昨年度に引き続き、令和2年度安全安心部会長を承ることになりました中井義也と申します。

今年度安全安心部会では、大きく2つの活動を行ってまいります。

①避難所マップの配布・掲示 ②HUGの開催 です。

①避難所マップの配布・掲示については、木曾川町連区全世帯に配布するのと合わせて、主要な公民館等にも配布し、掲示していただきます。

地域の方が、いつも見える場所にあり、意識していただけるようにし、有事が起こった際にすぐに行動できるような意識付けの一翼を担えればと思います。

②HUGの開催についてですが、HUGというのは、H→避難所・U→運営・G→ゲームの略でございます。昨年度も地域の方々に参加していただき、実際に災害が起きたときの現実を知り、今後の対策を立てる上で、とても重要なことを学びました。この活動を続けていき、地域の皆様と情報を共有しながら、災害時の基本的な行動などを共有できればと思います。安心・安全とは、私たちが日頃意識し、その意識が結集するとすごく大きな力になります。

私たち安全安心部会では、この2つの活動を通じて、**地域の方々の安全安心にお役に立てれば**と思います。これからもどうぞ、ご協力よろしくお願い致します。



女性目線で地域の方とつながりたい

女性部会長 宮崎 初美

地域づくり協議会に「女性部会」が発足して今年で5年目になりました。女性ならではの視点や感性を大事にして、地域づくり協議会主催の行事や提案事業に参加させていただき、日々勉強させていただいております。

女性ならではのコミュニケーション能力の高さを発揮し、今年度は3名の新たなメンバーを迎え、新年度の活動を楽しみにしておりましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、地域の恒例の行事も軒並み中止・変更を余儀なくされ、活動の場がない現状です。

地域の皆様の中でも、何か心寂しい日々を過ごしていらっしゃる方、落ち込みがちで毎日を過ごしていらっしゃる方もいらっしゃるのではないかと心配しております。そこで、今年度、女性部会では広報に力を入れて、「日常のちょっといい話」「ほっこりするエピソード」などの記事をHPや地域づくり協議会だよりで発信させていただき、地域の皆様と共有し、つながっていきたいと思っています。また、地域で自慢できるお店などをご紹介したり、頑張っている方の応援も出来ればと思っています。

まずは、部員の皆さんからの投稿をきっかけに、地域のみなさんからの投稿も受け付けていけるように試みたいと思いますので、ご協力、ご支援をよろしくお願い致します。



今こそ地域づくり協議会ができることを

広報部会長 菱川 陽子

コロナの影響で町内のみなさんも大変な時期をお過ごしのことと思います。広報部会長として、この地域づくり協議会だよりを作成しておりますが、こんな時だからこそ、『みなさんのお役に立てる情報誌でありたい!!』と強く想います。

今までは町内の行事予定や開催報告などを中心に構成していましたが、残念ながら今年度はほとんどの行事が中止となってしまいました。

では、この地域づくり協議会だよりをどう構成するか？ みなさんのお役に立てる情報は何か？ 考えた結果、今こそ木曽川町を応援する情報誌にしよう!! と思います。

みなさんが住んでいるここ木曽川町にも、まだまだ知らないお店がいっぱいあります。コロナの影響を受けながらも必死に頑張っているお店がたくさんあります。同じ町内に住むものとして、そんなお店と一緒に応援しませんか？ テイクアウトやデリバリーをしていただける飲食店はコロナの今、本当にありがたいですね。

自薦・他薦は問いませんので、「このお店美味しいよ」「頑張ってるから応援して欲しい」など情報をお寄せいただけたらと思います。

町内のみなさんで助け合い・協力し合って、コロナに負けない町づくりを!!
そして、改めてこの町に住んで良かったと思える木曽川町になるよう、
今できる事をしたいと思います。 ご協力よろしくお願い致します。



命を救う地図「避難所マップ」

木曽川町連区地域づくり協議会
安全安心部会 中井 義也

防災の基本は、自助・共助・公助。国の方針にもありますが、一番は「自助」自らが率先して命を守る行動をする事です。私たちが災害にあった際に大切な避難所のことを日ごろから知っておき、いざという時にどうすればいいのか、第1歩目の行動の意識を高めておくことが、実際に命を守ることに繋がります。

木曽川町連区地域づくり協議会安全安心部会では、約2年かけてプロジェクトを組み、とてもシンプルですが、わかりやすい地図と、裏面には、避難所利用者登録票があり、災害時には、この避難所マップをもっていけば、すぐに受付に提出できるようなものになっております。

お手元にこのマップが届いたら、まずは、ご家族皆さんで、避難所の場所を確認していただくとともに、洪水時の垂直避難、コロナ禍での分散避難について話し合ってくださいと思います。裏面にはご家族情報を書いていただき、家族みんなが見えるところに掲示していただくことで、日ごろの防災の意識を高める行動になります。

「命を救う地図」大げさな気もしますが、実際に災害が起きた時、自分の行動が決まっていることが、生死の分かれ目になる事があります。この避難所マップが木曽川連区の皆様の防災意識向上のきっかけになれば、うれしく思います。

